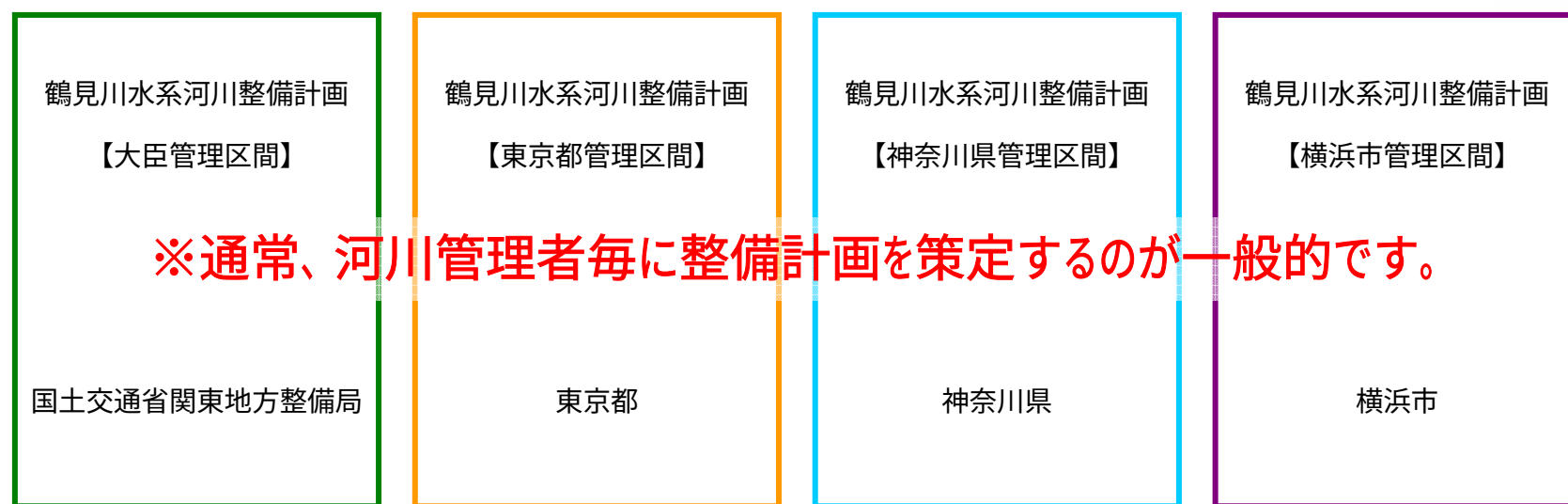


鶴見川の川づくりのポイント

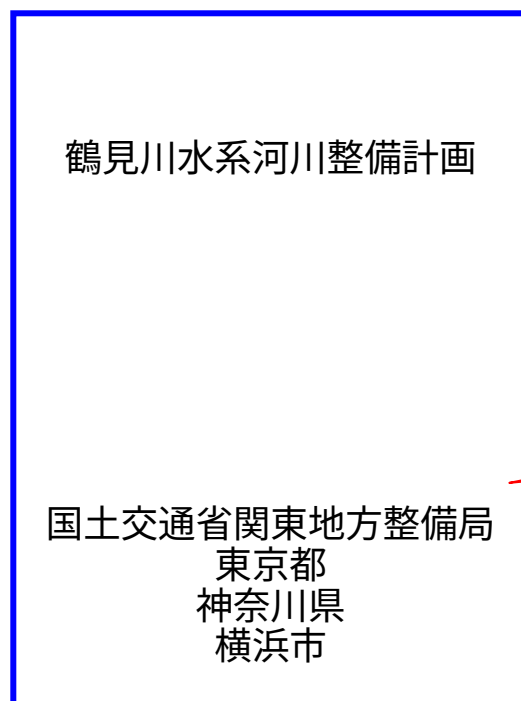
安全で清く美しい川づくりを目指して

鶴見川水系河川整備計画の策定

河川整備計画は、具体的な河川整備のメニューについて定めたものです。概ね30年間の計画です。



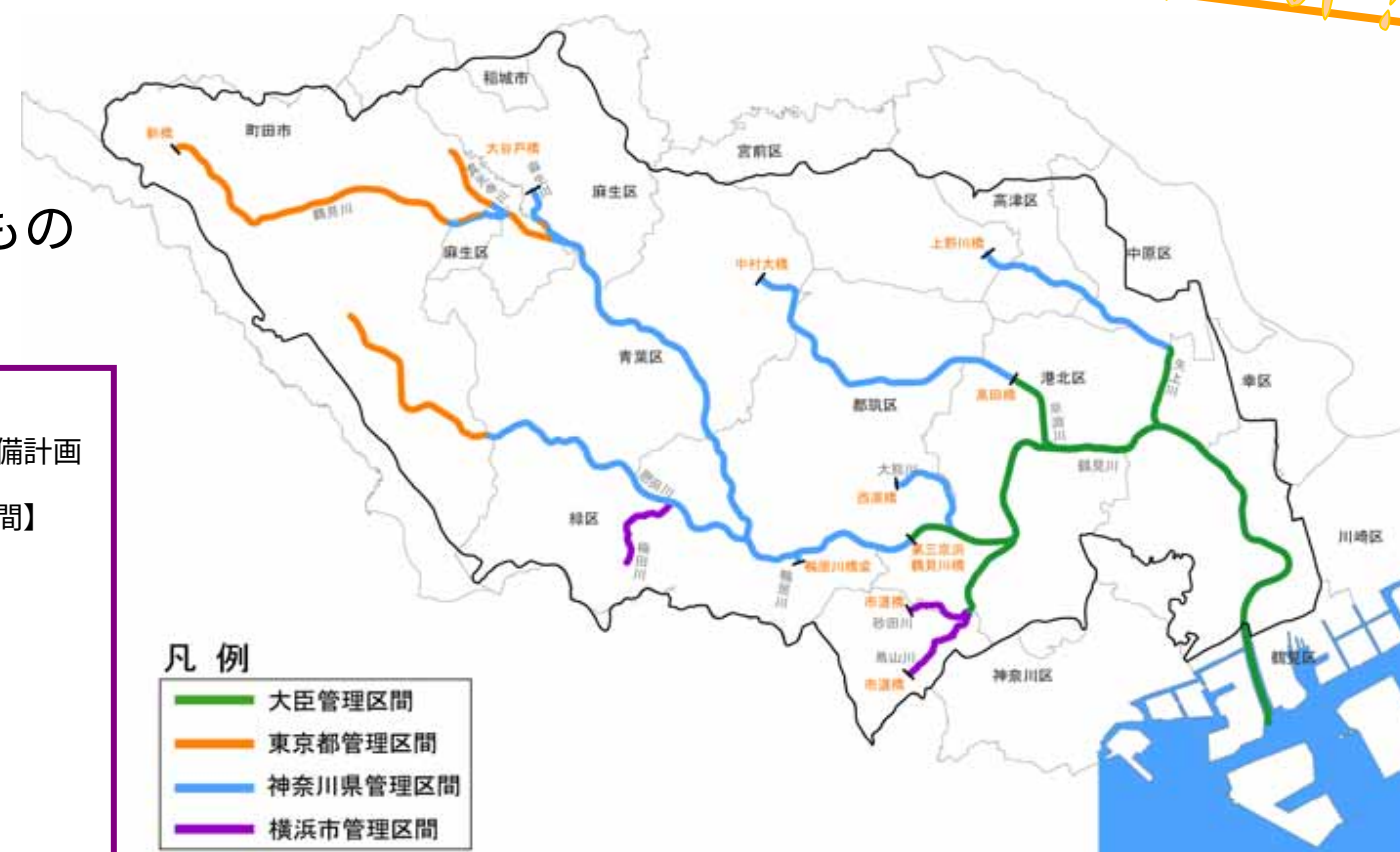
※通常、河川管理者毎に整備計画を策定するのが一般的です。



流域内の河川管理者が
共同で策定します。

整備計画を水系全体の河川管理者4者共同で策定するのは、全国で初めてです。

鶴見川 三十年の計!



同時
策定中

水害に強い街づくりを目指して

鶴見川流域水害対策計画の策定

流域内の
河川管理者
下水道管理者
自治体
が共同で策定します。

鶴見川流域水害対策計画

国土交通省関東地方整備局
東京都
神奈川県
横浜市
川崎市
町田市
稲城市

こちらは、全国で二番目です。

鶴見川の河川空間は、都市の中の大切な空間です。

残された貴重な自然環境



ヨコハマナガゴミシ



環境にも配慮して整備を進めています。

大勢の人が集う河川空間



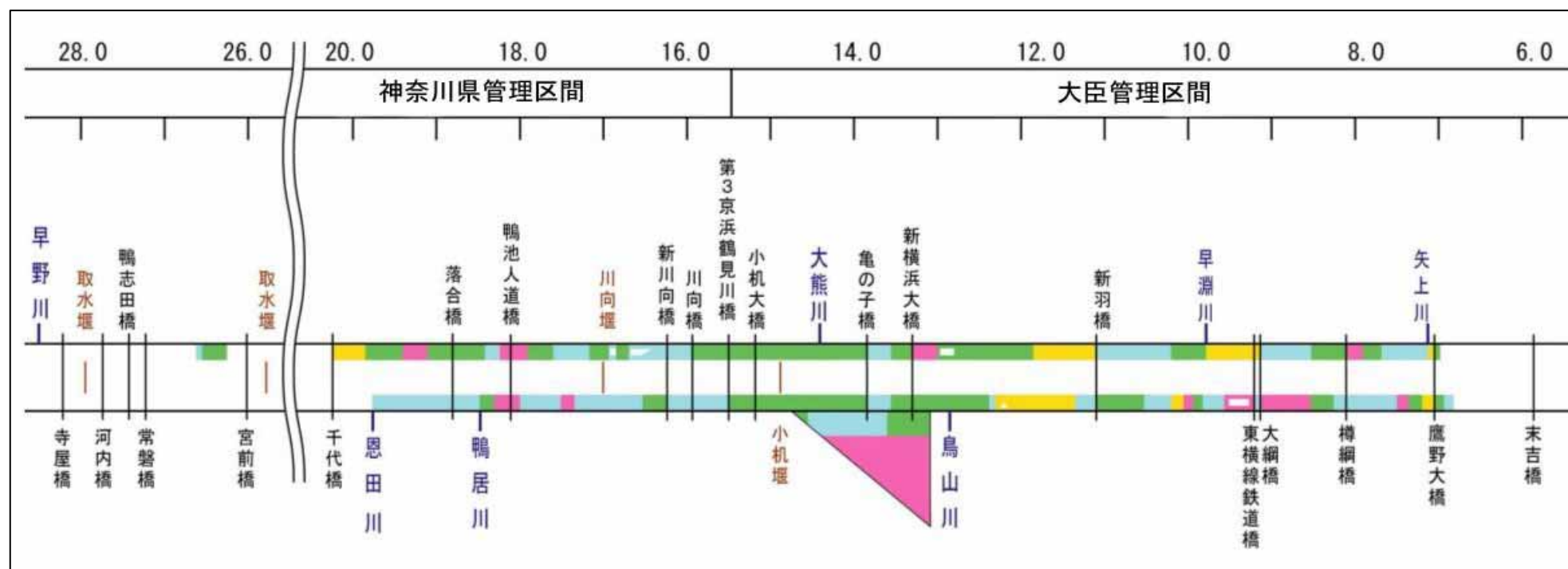
河川の利用者数日本一！

※区域面積あたりの年間利用者数（散策の部）
国土交通省
河川空間利用実態調査（平成15年）より



整備計画で

ゾーンを定め良好な環境の保全と秩序ある利用を目指します。



A. 自然保全・回復ゾーン



自然生態系の保全と回復を目指します。

B. 自然利用ゾーン



自然環境と調和した利用を目指します。

C. 広場利用ゾーン



スポーツ・レクリエーション等の利用を目指します。

D. 半自然地ゾーン



当面現状のままとします。

昔から浸水被害が頻発。暴れ川と呼ばれてました。



浸水被害を防ぐため、様々な取り組みを実施しています。

河道整備 (築堤・浚渫)

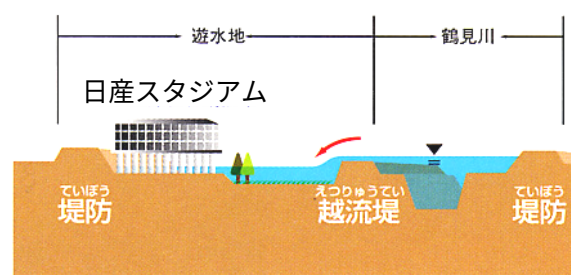
水の通り道を大きくして、流れやすくします。



多目的遊水地の整備

洪水時には河川からの水を取り込んで、一時的に貯めておきます。

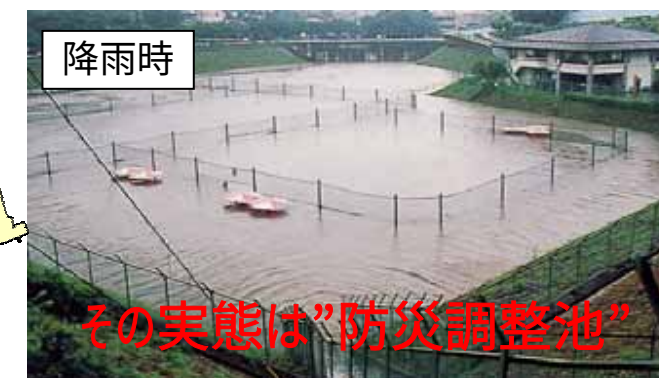
日産スタジアムも遊水地の一部です。



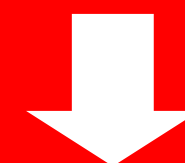
流域での取り組み (防災調整池の整備)

雨水を貯めて河川の流量を低減させます。

流域に設置された防災調整池
約3,300基 (約270万 m^3)



昔に比べると格段に安全に。
でも、まだまだ、浸水被害の恐れがあります。
より一層安全な川を目指して……



さらなる災害安全度の早期向上を目指し、河川の整備（ソフト・ハード）を実施します。

整備計画で

環境に配慮し、河川の整備を実施します。

高水敷の掘削は必要最小限とします。

